

2025年3月期 決算短信補足資料

2025/5/14

株式会社ニッスイ



© Nissui All Rights Reserved.

2025年3月期 決算概況

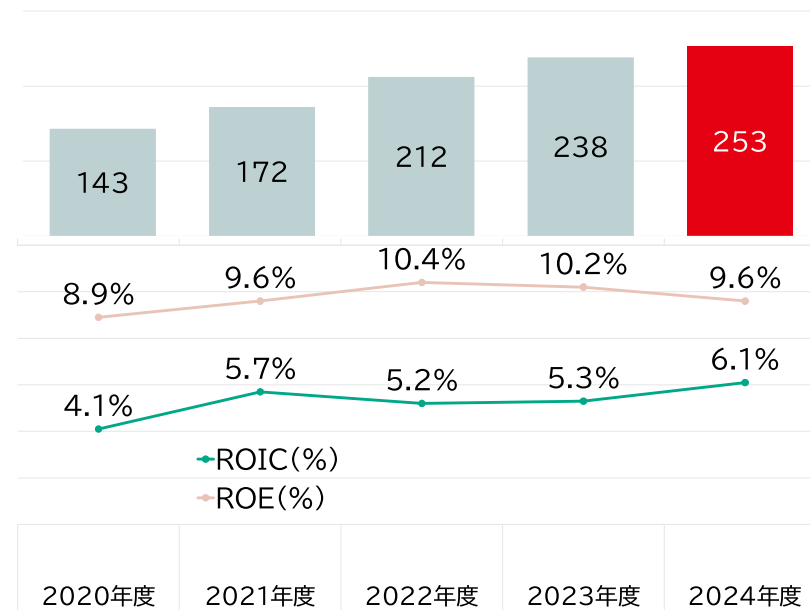


2025年3月期 サマリー

売上高・各段階利益とも過去最高で、当期純利益は4期連続最高益。ROICも6.1%まで改善。期末配当は16円で6期連続増配(年間28円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	対前期比 増減	増減率(%)
売上高	8,313 億円	8,861 億円	547 億円	6.6
営業利益	296 億円	317 億円	21 億円	7.1
経常利益	319 億円	353 億円	33 億円	10.4
当期 純利益	238 億円	253 億円	15 億円	6.4
ROIC	5.3 %	6.1 %	0.8 %	
ROE	10.2 %	9.6 %	▲0.6 %	

<当期純利益・ROIC・ROE推移>



2025年3月期 セグメント別概況

食品・チルドが好調なうえ為替効果もあり水産・食品いずれも増収だが、水産が減益。

(単位:億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	率(%)
売上高	8,313	8,861	547	6.6
水産事業	3,368	3,640	271	8.1
食品事業	4,432	4,710	277	6.3
ファインケミカル事業	156	158	1	0.9
物流事業	152	165	13	8.7
その他	202	186	▲16	▲8.1
営業利益	296	317	21	7.1
水産事業	106	84	▲22	▲21.3
食品事業	272	287	14	5.2
ファインケミカル事業	▲1	8	10	—
物流事業	15	28	13	84.7
その他	7	9	1	18.3
全社経費	▲104	▲100	4	▲4.5
経常利益	319	353	33	10.4
親会社株主に帰属する当期純利益	238	253	15	6.4

<売上高為替影響額>

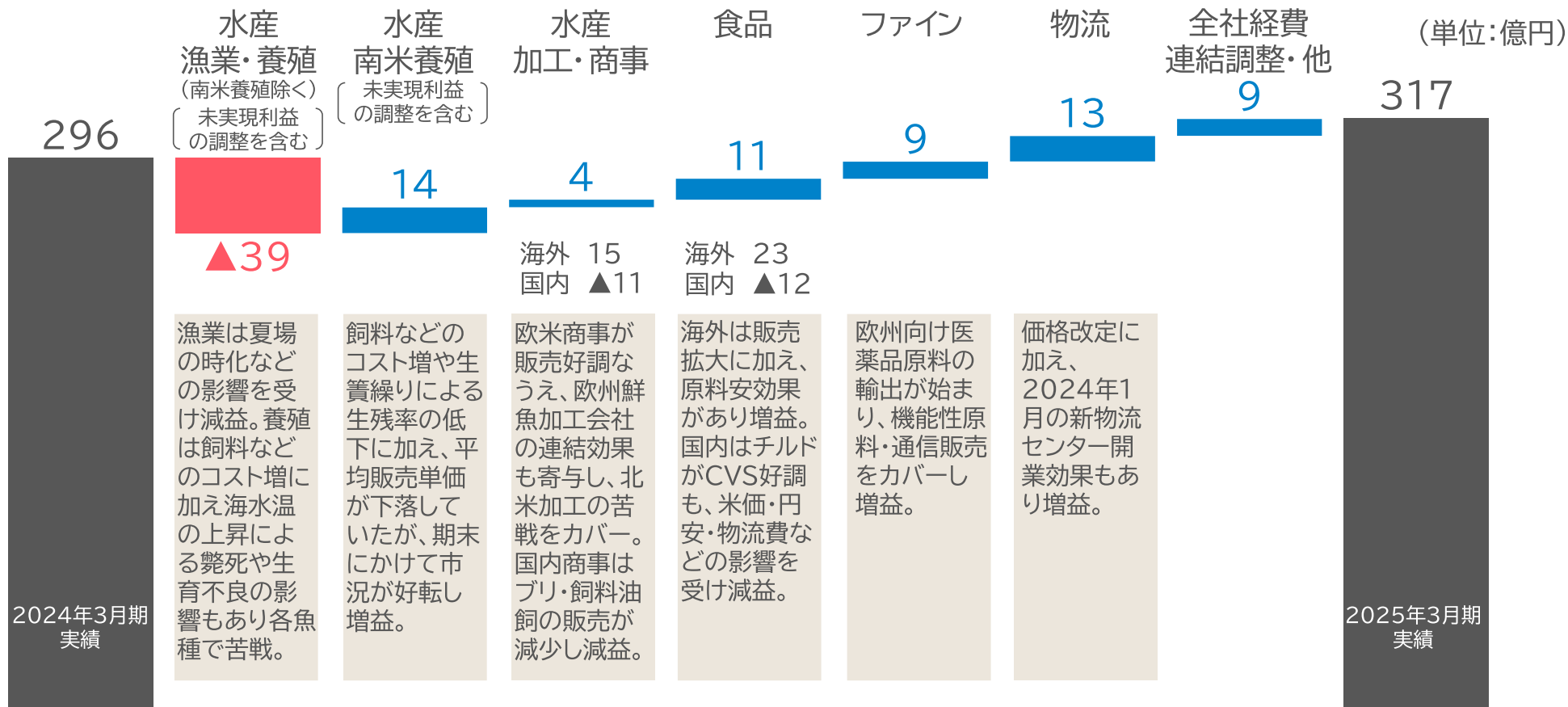
合計 +約300億円

水産+約150億円

食品+約150億円

2025年3月期 主な営業利益増減要因(前期比)

海外水産・食品に加え物流が好調で、苦戦する国内の水産や食品など主要事業をカバー。



2025年3月期 連結貸借対照表(前期末比)

運転資本の増加に加え、欧米への成長投資もあり総資産が増加。

(単位:億円)

()内の数字は前期末比増減					
流動資産	3,325	(+74)	流動負債	2,261	(+133)
現金及び預金	147	(▲19)	支払手形及び買掛金	564	(▲1)
受取手形及び売掛金	1,074	(▲8)	短期借入金	1,141	(+174)
棚卸資産(在庫)	1,950	(+109)	未払費用	291	(▲44)
固定資産	3,023	(+210)	固定負債	1,227	(▲135)
有形固定資産	1,809	(+146)	長期借入金	958	(▲138)
無形固定資産	170	(▲3)	純資産	2,859	(+286)
投資その他の資産	1,043	(+67)	自己資本	2,770	(+278)
総資産	6,348	(+284)	自己資本比率		
			'24/3 41.1% ⇒ '25/3 43.6%		

2025年3月期 連結キャッシュフロー(前期比)

税金の支払いが増加したものの、FCFは100億円をキープ。

(単位:億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減
税金等調整前当期純利益	348	362	13
減価償却費(のれん償却含む)	228	257	28
運転資本	35	▲59	▲94
その他(法人税等の支払額、等)	▲68	▲156	▲88
営業CF	544	403	▲141
設備投資額(固定資産取得額)	▲262	▲309	▲47
その他	▲115	6	120
投資CF	▲377	▲303	73
借入金の増減額	▲58	▲15	43
その他	▲64	▲99	▲33
財務CF	▲123	▲114	9
現金期末残高	195	186	

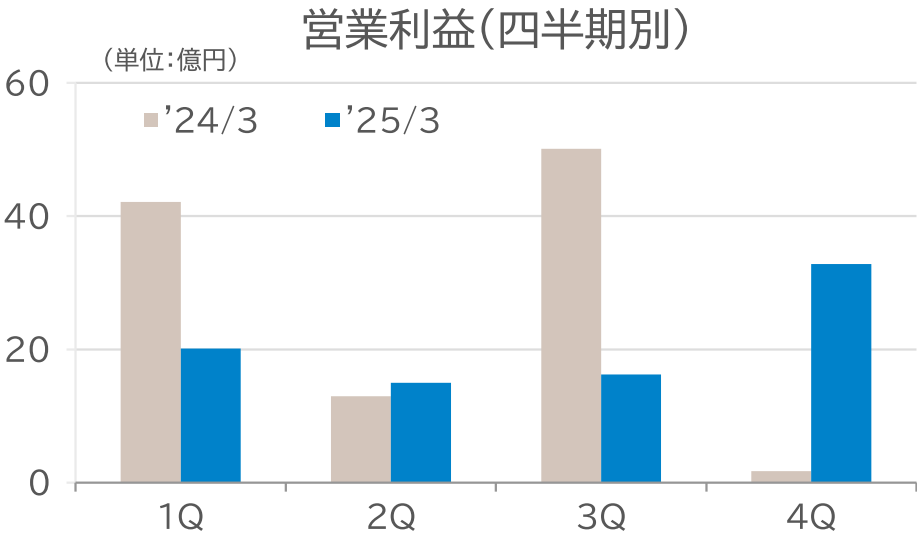
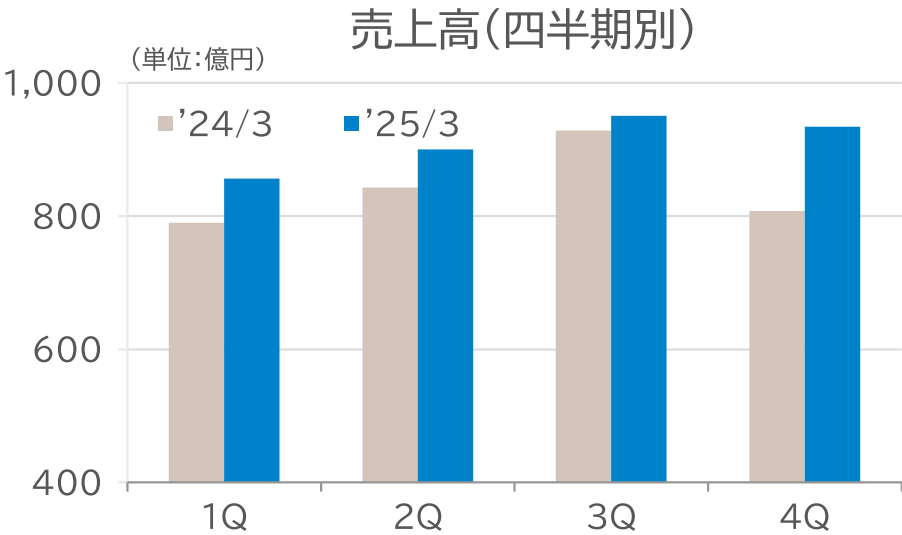
<Recipe1(2022－2024年度)>



2025年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

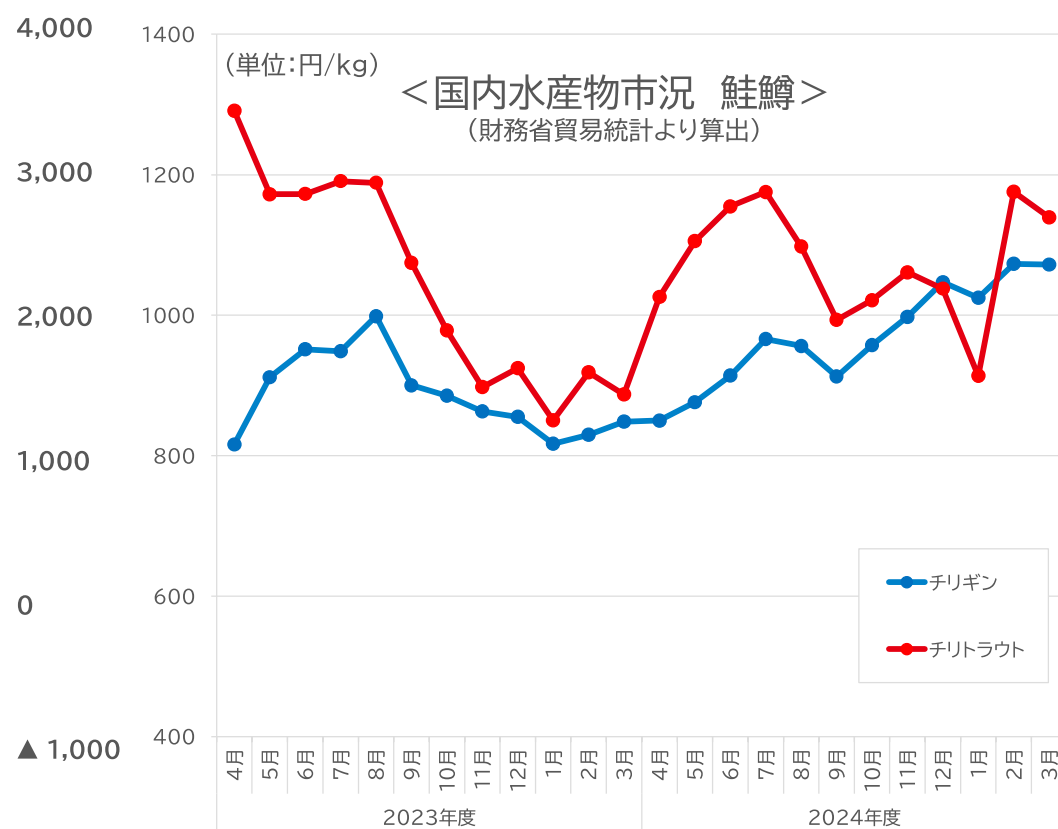
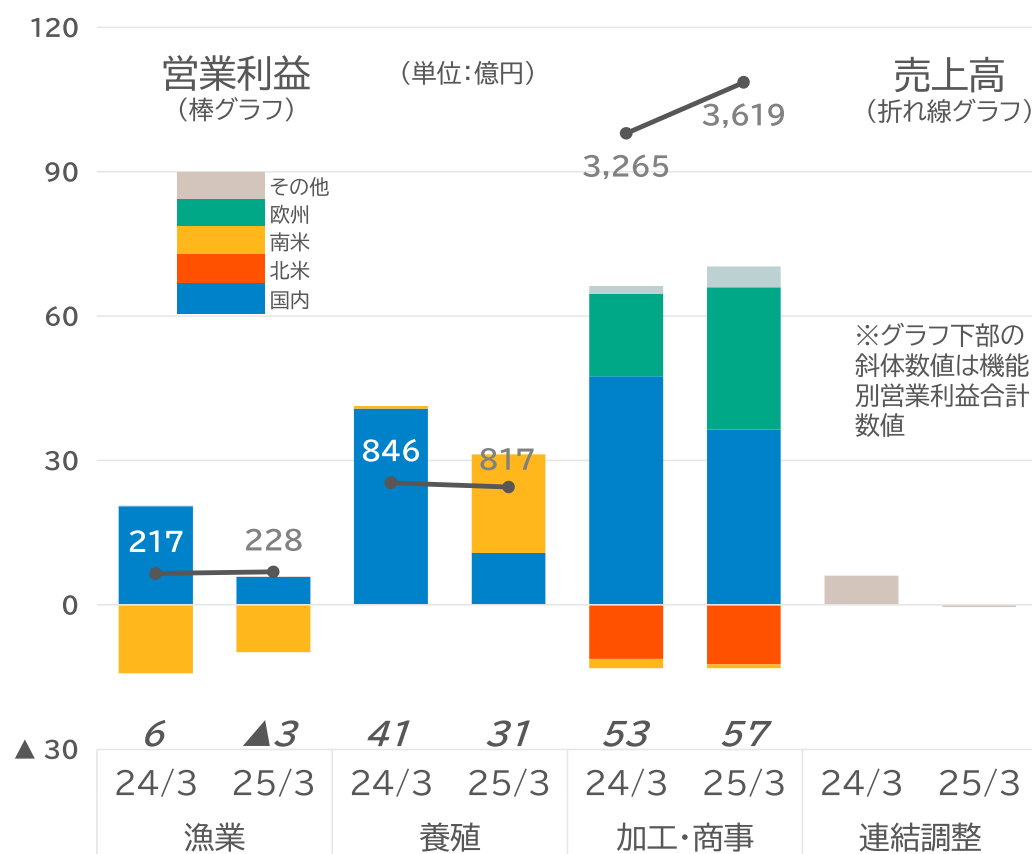
為替の影響に加え、国内外の商事が好調に推移し増収。足下では南米養殖の好転など回復の兆しが見えるも、年間では国内養殖・北米加工などの苦戦により減益。

(単位:億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,368	3,640	271	8.1
営業利益	106	84	▲22	▲21.3



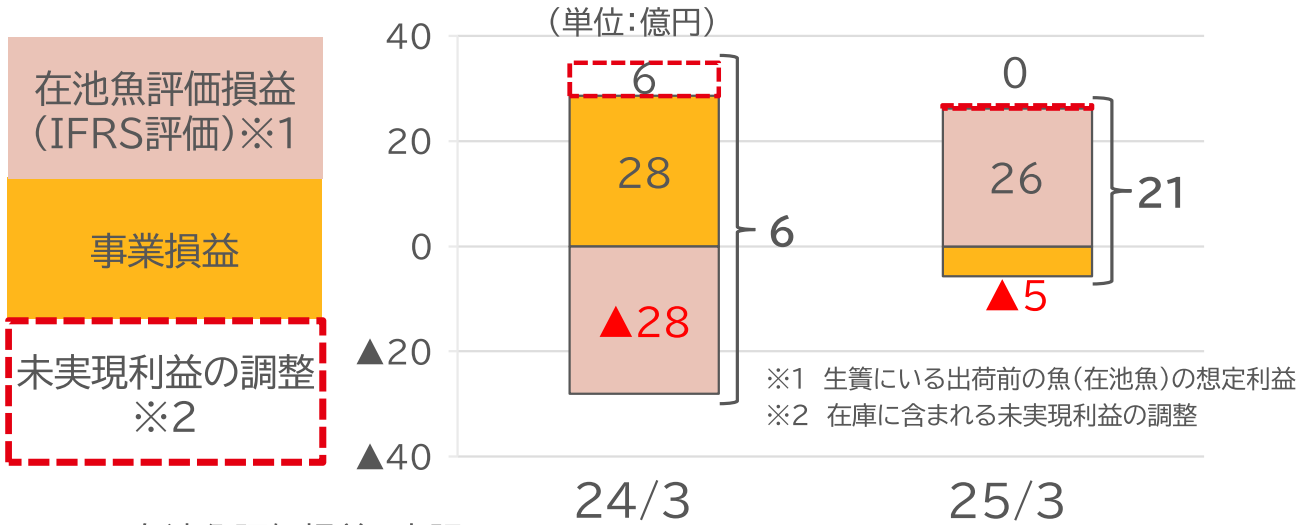
2025年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

漁業は時化による漁獲減、養殖は海水温上昇に加え、飼料価格上昇、マグロ市況低迷もあり苦戦。加工商事は欧州が寄与するも、北米加工のすりみ・フィレ価格低迷で前年並み。



2025年3月期 南米鮭鱒養殖について

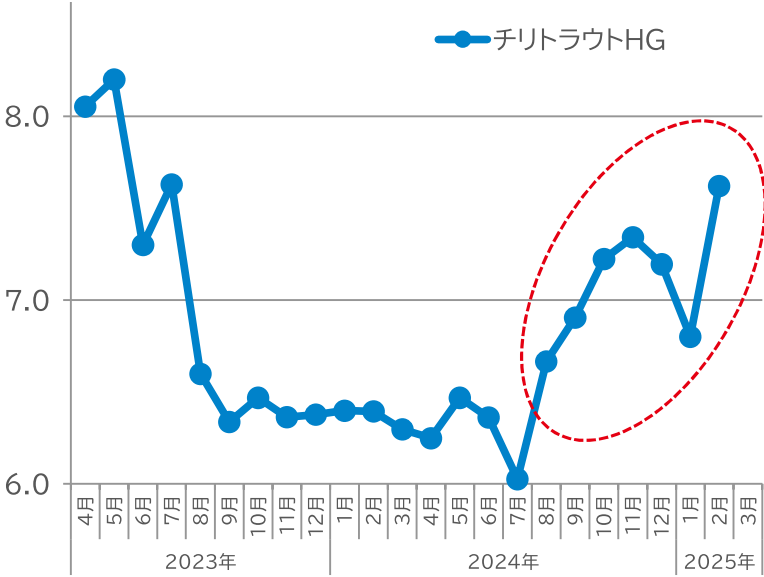
在池魚評価は販売単価が回復基調にあり、期首戻入額とネットでプラス(+26億円)。



<在池魚評価損益 内訳>

(単位:億円)	24/3	25/3
期首戻入額	▲7	22
期末評価損益	▲20	4
在池魚評価損益	▲28	26

<チリ産トラウトHG相場推移>
(単位:USD/kg)

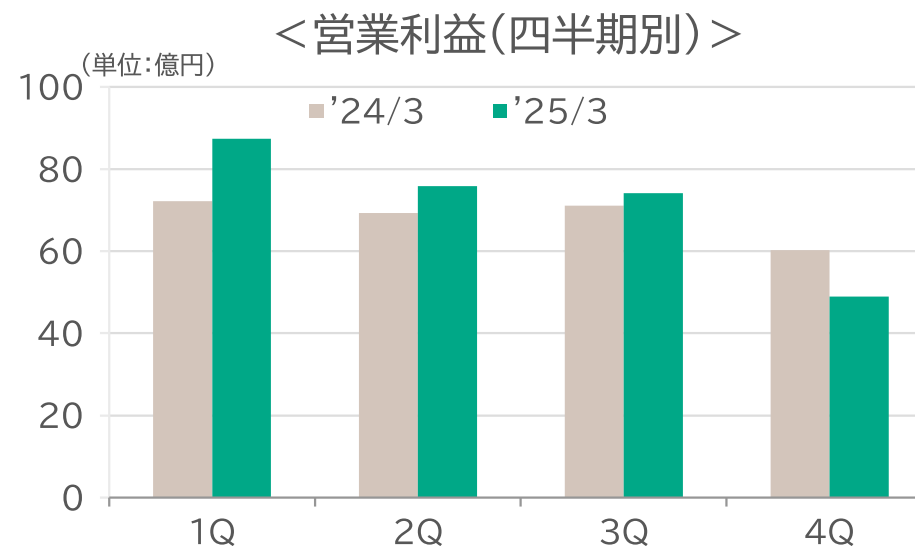
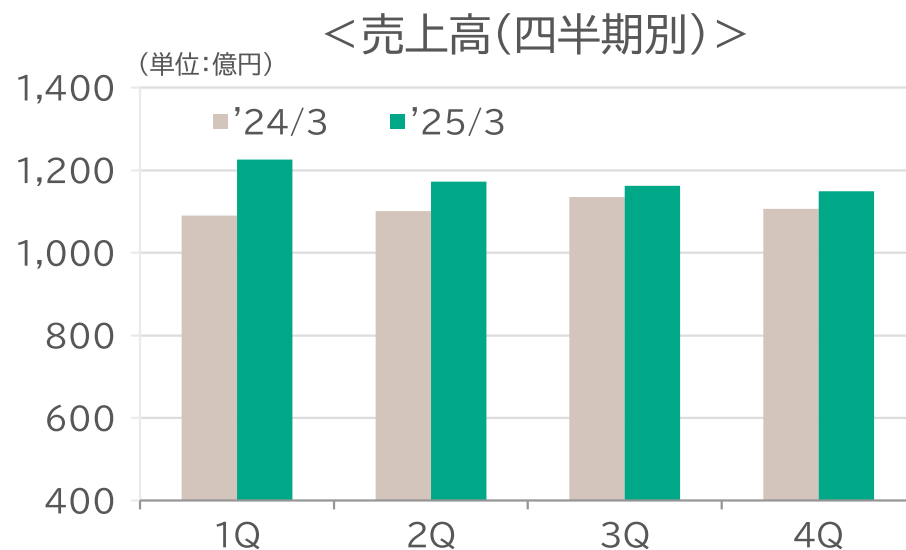


(出典:InfoTrade) (HG:頭と内臓を除去した状態の魚)

2025年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

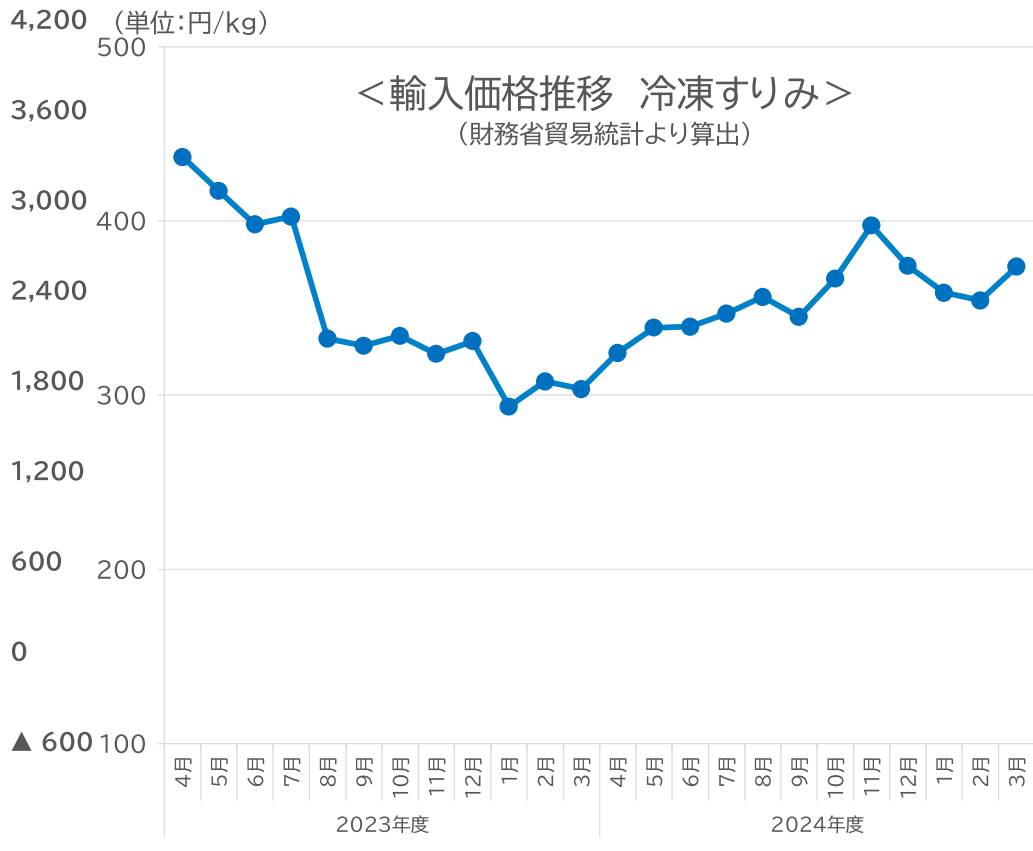
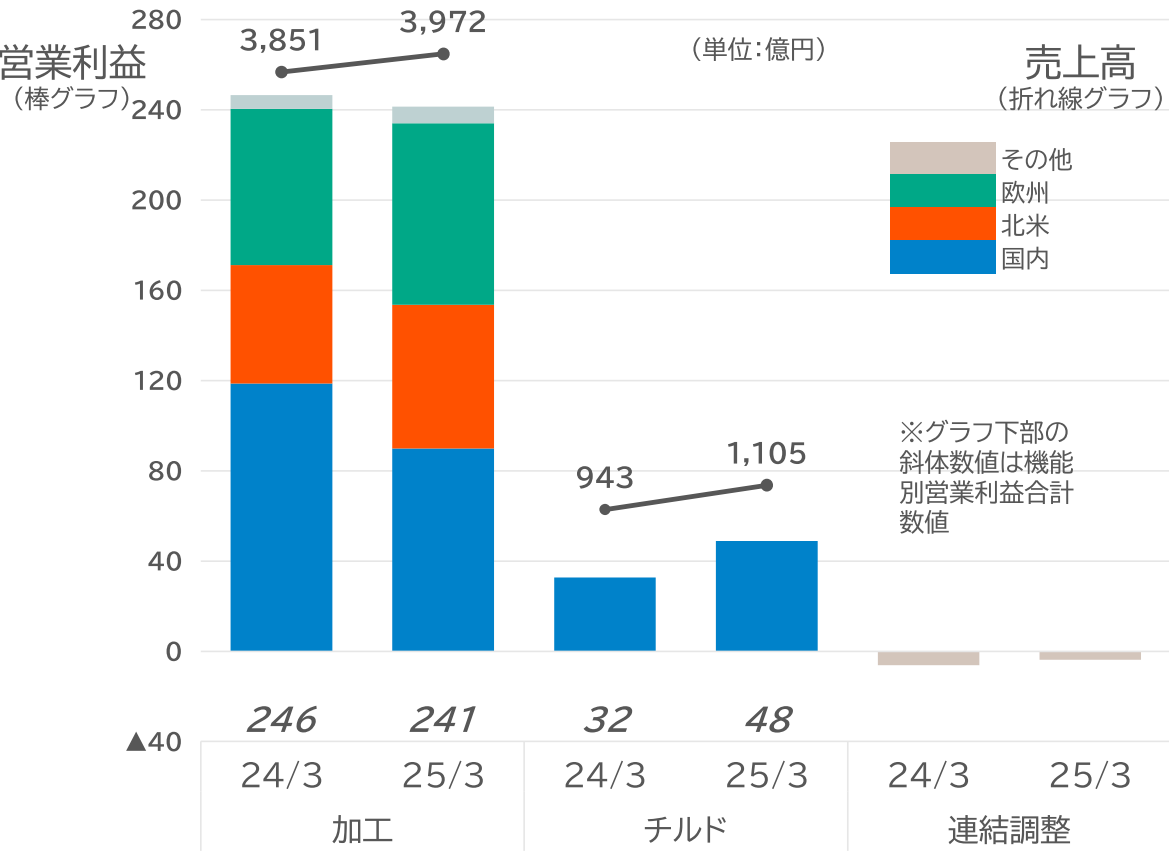
足下では原材料価格上昇があるも、年間では国内外とも販売好調で増収・増益。

(単位:億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	4,432	4,710	277	6.3
営業利益	272	287	14	5.2



2025年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

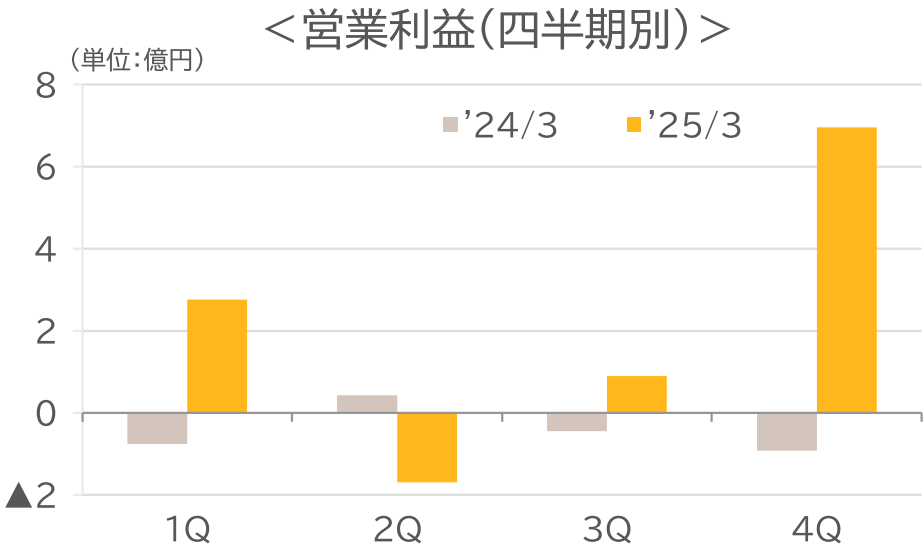
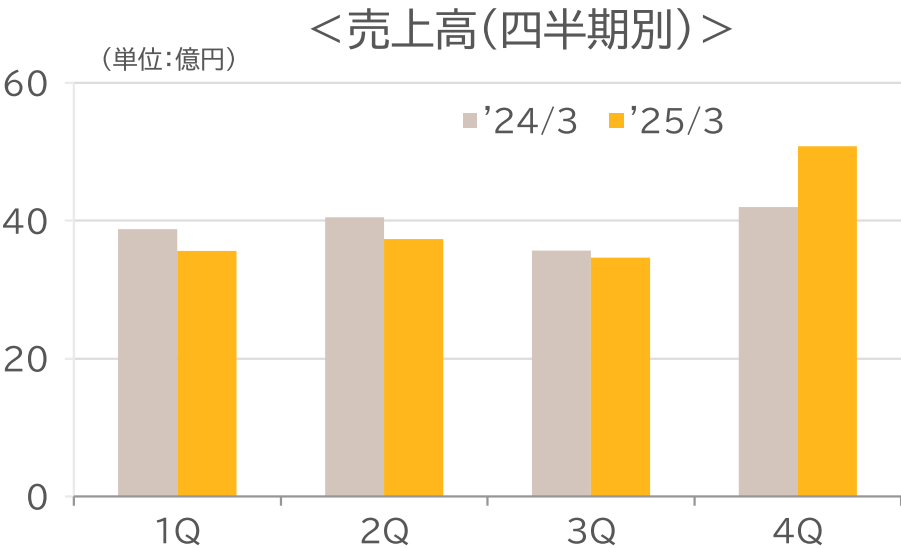
海外は白身魚原価低減の効果が継続し増益。国内はすりみ調達のメリットあるも、米の高騰・円安・物流費の影響を受け減益。チルドはCVSの施策が好調で増益。



2025年3月期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前期比)

医薬品原料の国内向け販売の増加に加え、欧州向け輸出がスタートし増収・増益。

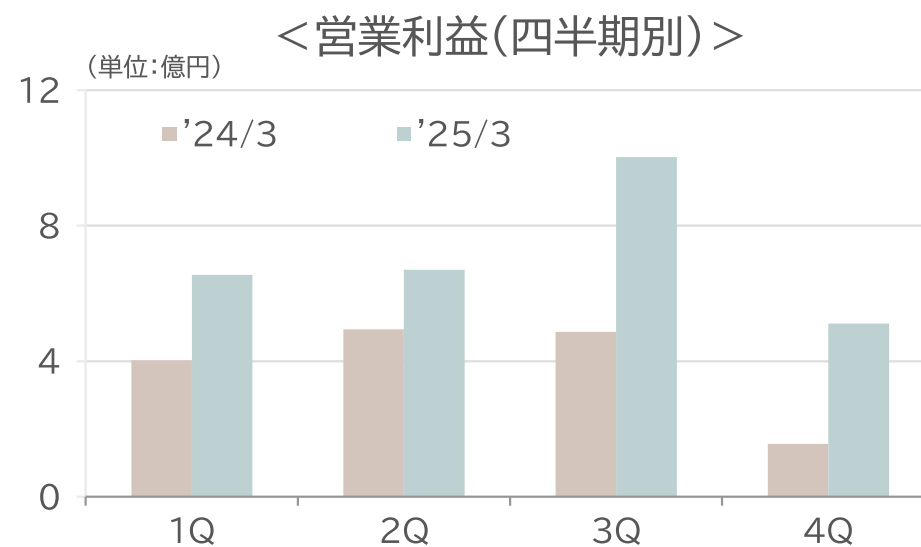
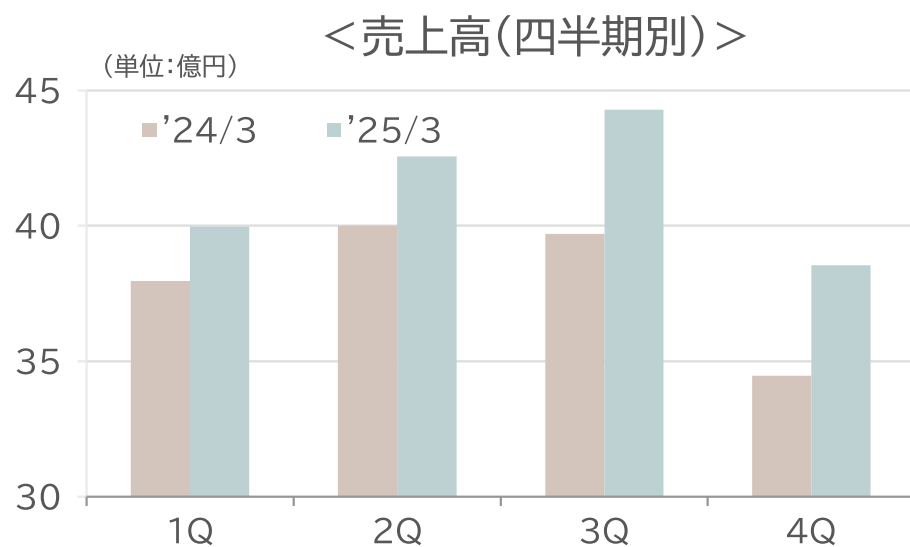
(単位:億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	156	158	1	0.9
営業利益	▲1	8	10	—



2025年3月期 物流事業 売上高・営業利益(前年同期比)

価格改定に加え、2024年1月の新物流センター開業効果もあり増収・増益。

(単位:億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	152	165	13	8.7
営業利益	15	28	13	84.7



2026年3月期計画



2026年3月期 計画 サマリー

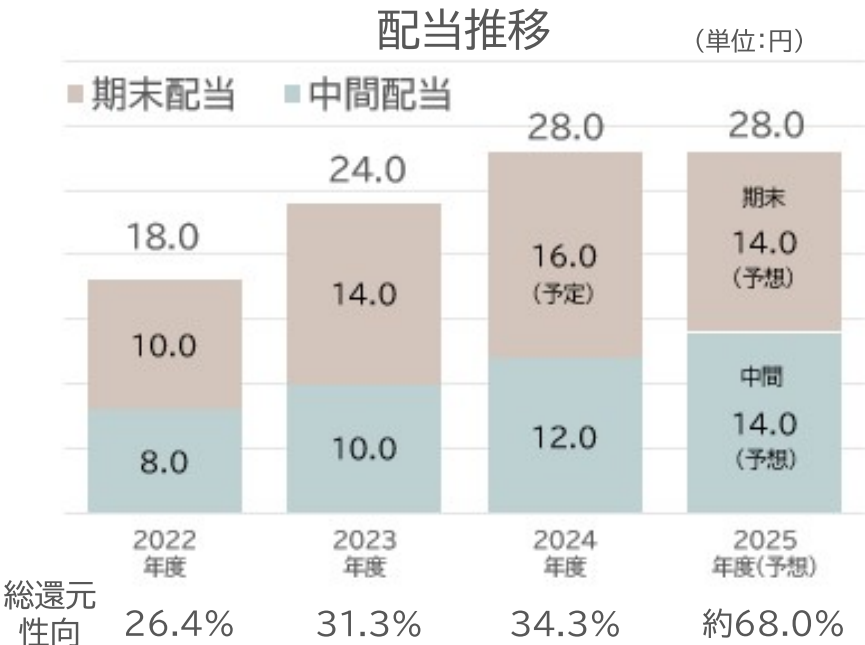
トランプ関税など取り巻く事業環境は不透明であるが、営業利益は8.6%増益を計画。一方、前期は繰延税金資産を計上し税金費用減があったため当期は反動増となり、当期純利益はほぼ横ばい。配当は28円/年を予定。

	2025年3月期 実績	2026年3月期 計画	対前期比 増減		中計目標 2028年3月期 計画
				増減率(%)	
売上高	8,861 億円	9,000 億円	138 億円	1.6	9,700 億円
営業利益	317 億円	345 億円	27 億円	8.6	410 億円
経常利益	353 億円	355 億円	1 億円	0.6	425 億円
当期 純利益	253 億円	250 億円	▲ 3 億円	▲ 1.5	300 億円
配当	28 円	28 円	0 円		

2026年3月期 株主還元について

当社の株主還元の方針は「**安定的な配当を実現しつつ3年間の総還元性向40%以上**」としている。

▶ この度、配当に加え初めて「自己株TOB」を実施し、株主還元の強化と資本効率の向上を図る。
総還元性向は約68%を想定している。



自己株式取得・公開買付の概要	
買付予定株式数(上限)	11,000,000株
応募予定株式数	6社合計 7,862,350株
発行済株式総数に対する割合(上限)	3.52%(自己株式を除く割合:3.54%)
取得価額の総額(上限)	約85億円
取得期間	2025年5月15日から6月11日まで(20営業日)
買付け等の価格	普通株式1株につき、772円 (公開買付公表日の前日の終値又は同日までの過去1ヶ月間の終値単純平均値のいずれか低い方の価格に対して10%のディスカウント)

総還元
性向

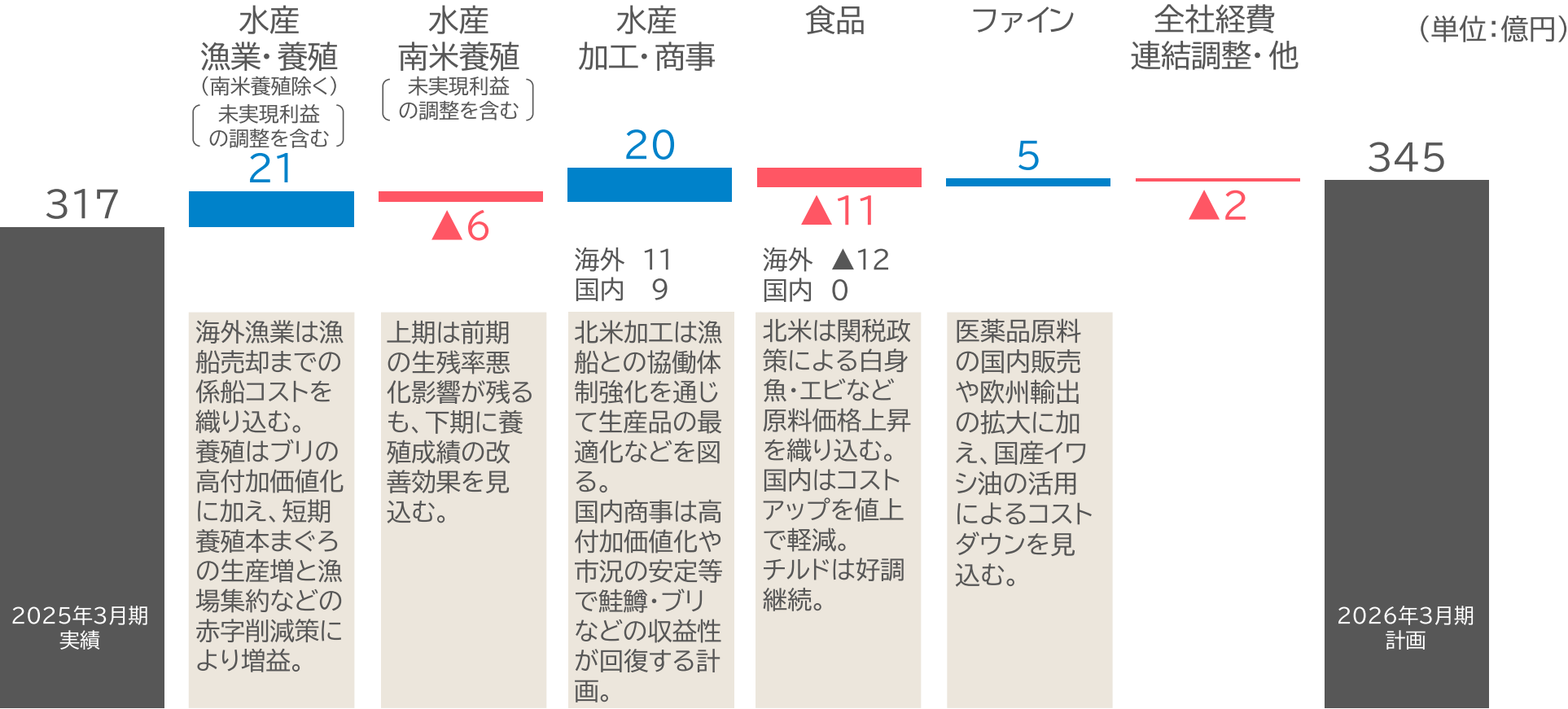
2026年3月期 計画 セグメント別概況

南米漁業の減船や、国内商事の魚油・ミールの市況下落で水産事業が減収も、食品・ファインケミカル事業は増収。

(単位:億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 計画	対前期比増減		中計目標 2028年3月期 計画
			(億円)	率(%)	
売上高	8,861	9,000	138	1.6	9,700
水産事業	3,640	3,568	▲72	▲2.0	3,759
食品事業	4,710	4,901	190	4.0	5,408
ファインケミカル事業	158	183	24	15.5	265
物流事業	165	167	1	1.0	181
その他	186	181	▲5	▲2.8	87
営業利益	317	345	27	8.6	410
水産事業	84	127	43	51.4	192
食品事業	287	278	▲8	▲3.0	289
ファインケミカル事業	8	14	5	57.0	36
物流事業	28	25	▲2	▲10.2	9
その他	9	9	0	2.6	7
全社経費	▲100	▲110	▲9	9.9	▲123
経常利益	353	355	1	0.6	425
親会社株主に帰属する当期純利益	253	250	▲3	▲1.5	300

2026年3月期 計画 主な営業利益増減要因(前期比)

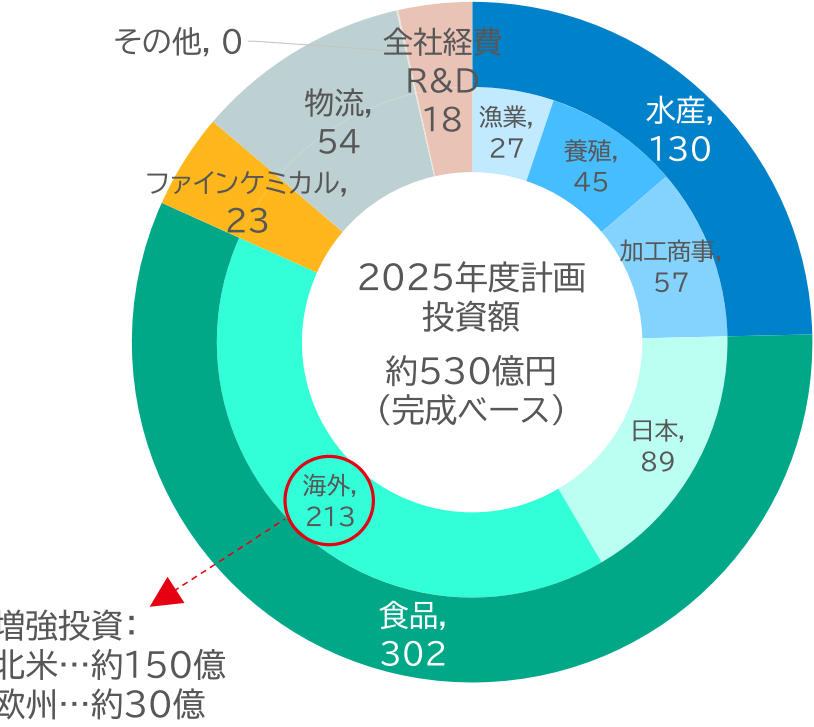
養殖事業の改善と南米漁業・北米加工の赤字縮小、ファインケミカル事業の拡大があるも、トランプ関税政策の影響で北米水産商事や食品事業が不透明。



2026年3月期 設備投資計画・キャッシュフロー

海外食品事業の生産能力増強投資を中心に、資源アクセスへの投資も実施。

<設備投資内訳>



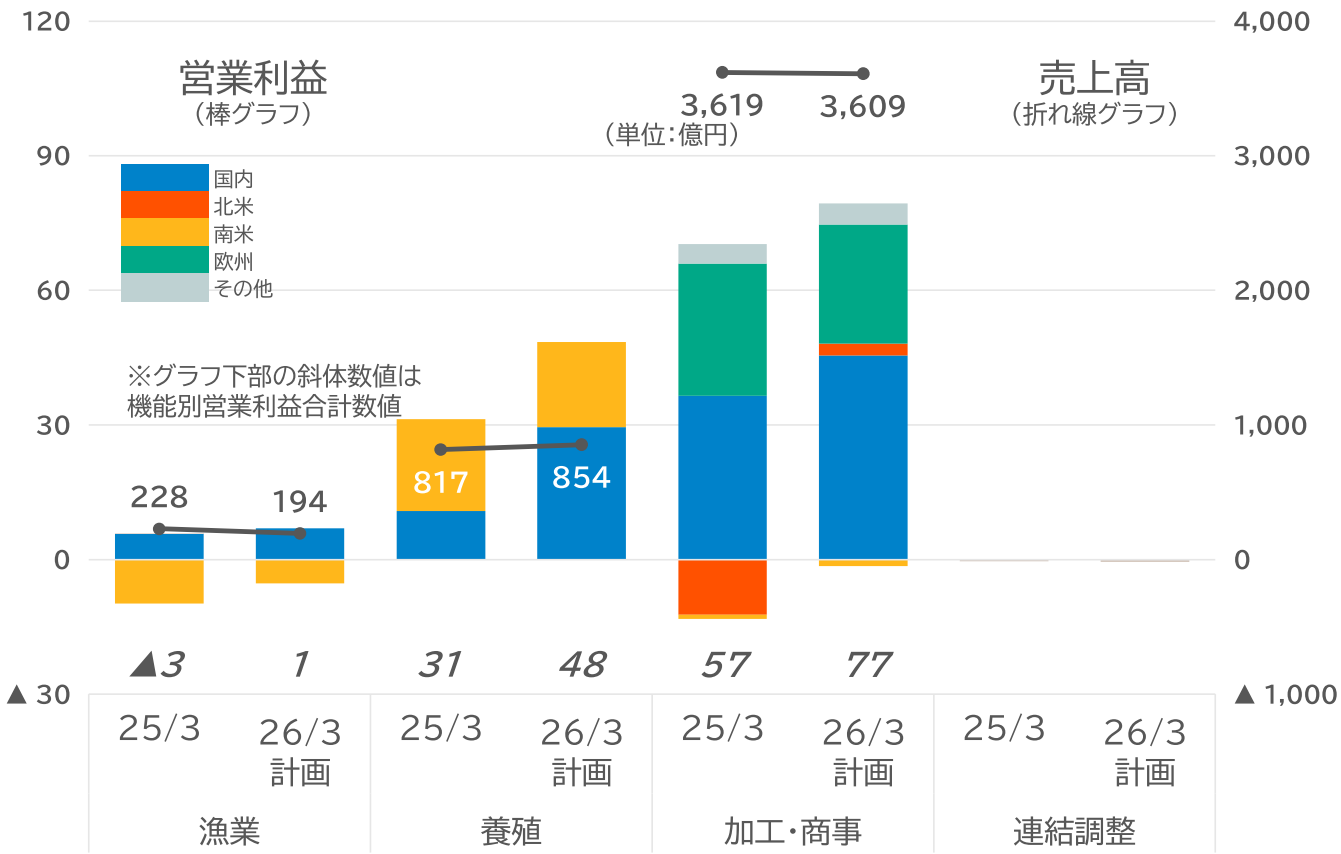
<25年度 CF計画>

(単位:億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 計画	増減
税金等調整前当期純利益	362	355	▲7
減価償却費(のれん償却含む)	257	267	10
運転資本	▲59	▲5	53
その他	▲156	▲155	0
営業CF	403	461	57
設備投資額(固定資産取得額)	▲309	▲519	▲209
その他	6	▲40	▲46
投資CF	▲303	▲559	▲256
借入金の増減額	▲15	142	157
その他	▲99	▲101	▲2
財務CF	▲114	40	154
現金期末残高	186	128	

2026年3月期の取り組み： 水産事業

北米加工・南米漁業の赤字縮小、国内養殖の改善により大幅増益を見込む。

(単位:億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,640	3,568	▲72	▲2.0
営業利益	84	127	43	51.4



今後の取り組み：水産事業(養殖事業の拡大・収益安定化)

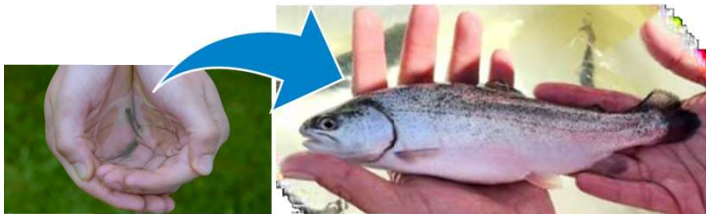
養殖事業の更なる拡大に加え、外部環境の変化に対応し安定的に収益を上げられる仕組みを構築。

▶ 種苗生産能力の増強による養殖成績改善

ー (ブリ・鮭・鱒) 成長促進・高温耐性化、成魚になった時の魚病リスク低減などの種苗強化により生産性向上

・ 種苗養殖場の拡充や淡水養殖場の増設により、生産を更に拡大。

・ 過密解消による種苗品質を向上など、養殖成績の更なる改善を図る。



▶ 環境変化への対応による安定生産の実現

ー ワクチン開発や漁場疫学による防疫体制を構築し、抗菌剤使用を削減。

ー 適切な漁場運用により斃死リスクを回避。

ー 沖合漁場での大型生簀や浮沈式生簀への転換と、次世代給餌システム(海中給餌)の開発により、高水温への対応強化に加えCO₂などの環境負荷を軽減。

ー 先端技術の活用による給餌や飼育管理の自動化で、労働災害の減少とコストダウンを図る。



今後の取り組み：水産事業(南米漁業・北米水産加工事業のターンアラウンド)

収益構造の見直しを中心に事業変革を進める。

▶ (南米漁業)操業体制の見直し

- ー1隻減船による操業スタート
- ・ すりみ生産縮小・フィレ生産増加で、原魚価値を向上させる。
- ・ 2025年度は売却完了までの係船コストが発生。2026年度からの黒字化を見込む。



▶ (北米加工)原魚価値の最大化

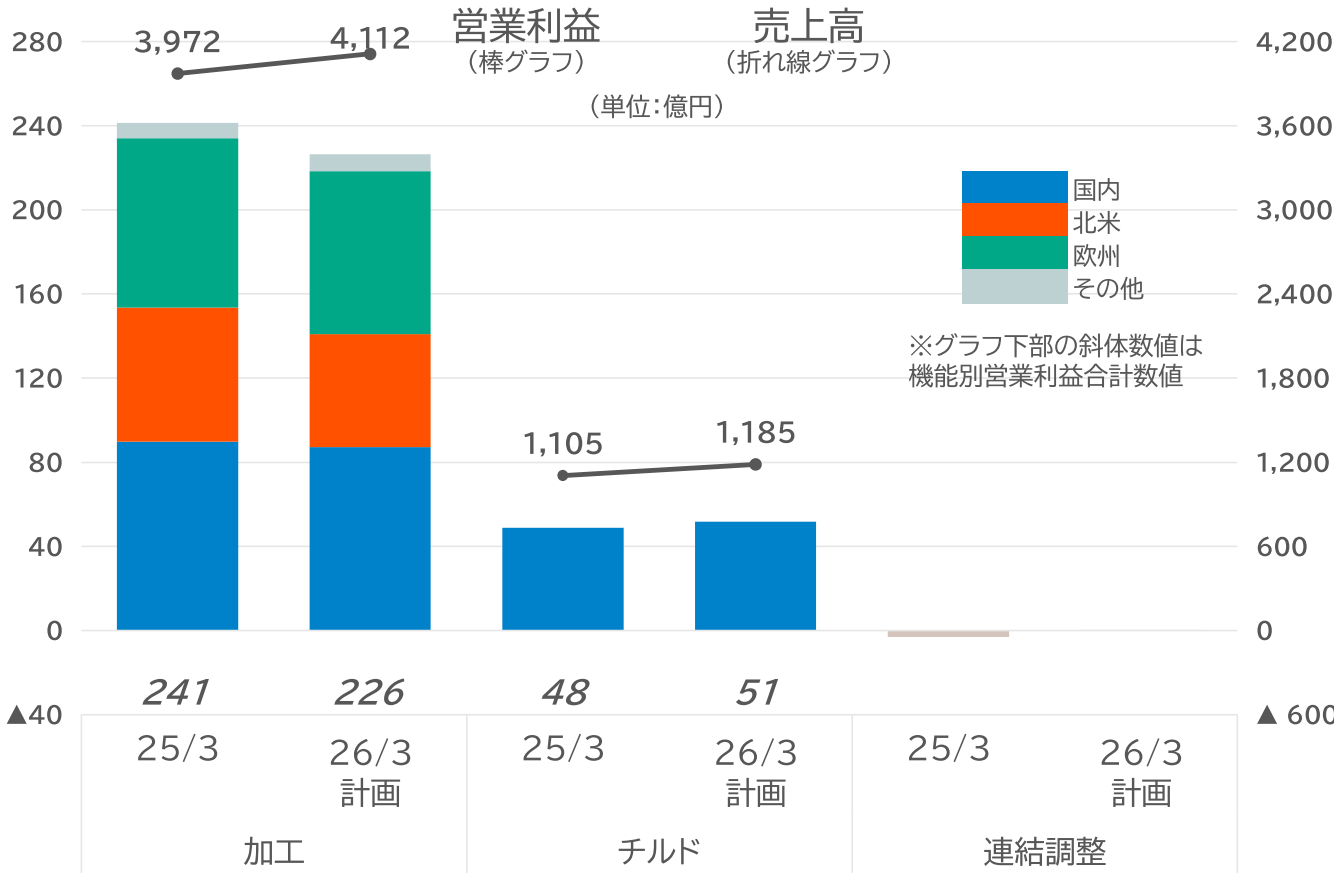
- ーフィレ生産比率の向上による収益改善
- ・ すりみと比較して価格が高値安定しているフィレの生産比率を約5%高める。
- ー漁船との協働体制強化
- ・ 加工ラインと連動した効率的な原料搬送体制によって、適切なタイミングでの原料調達を実現。スケソウダラ原料の品質安定による製品価値アップに加え、効率的な工場稼働や人員配置を実現する。



2026年3月期の取り組み： 食品事業

北米の原料調達においてトランプ関税の影響が懸念される一方、チルドの好調継続を織り込む。

(単位:億円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	4,710	4,901	190	4.0
営業利益	287	278	▲8	▲3.0



今後の取り組み： 食品事業(海外:ROIC改善に向けた取り組みの事業への落とし込み)

トランプリスクがあるも、原料調達が多様化やエリア・カテゴリーの拡大により影響を低減。

▶ (欧州・北米)生産能力の増強

ー欧州は自動化と生産能力拡張による需要対応で収益力を強化し、北米は工場新設による内製率向上と物流効率化を図る。
(2025年下期 稼働予定)

▶ (欧州)スペイン・イタリアへの拡大と チルド売場でのプレゼンス向上

ー量販店が鮮魚売り場を構えるスペイン
やイタリアなどの地中海沿岸国への販
売拡大

ーチルド水産フライ売場と
隣接するタパスも強化。



▶ (北米)商品カテゴリーや販売チャネル拡大

ーEコマースに加え、会員制店舗やディスカウントストアな
ど、販売チャネルの多様化を進める。



今後の取り組み： 食品事業(日本)

米をはじめとしたコストアップを価格改定やアイテム管理などで吸収し、収益性改善を目指す。

▶ 戦略的な価格改定と単品別収益管理の徹底による収益性向上

- ・まずは2025年3-4月家庭用・業務用商品で3%～30%の価格改定を実施。年間で約60億円の改定効果を織り込む。
- ・価格改定や不採算アイテム削減を引き続き実施していくことで、収益性改善を図る。

▶ 簡便・即食・健康など消費者ニーズに対応した差別化商品の展開

- ・独自技術やノウハウを融合した優位性のある商品を展開。



レンジで時短・簡便に調理できる冷凍総菜



レンジ調理で簡単に喫食できるワンプレート冷凍弁当

▶ チルド事業の強化：商品開発機能の強化と生産性向上により統合効果を最大化

- ・商品開発強化：カップ惣菜・丼などニーズがある商品開発への注力や、新製法の活用、既存カテゴリー拡張などでトップライン向上を図る。

- ・生産性向上：共同配送による物流費削減や、システム導入・自動化で業務標準化し生産性を向上させることで、収益力強化を図る。

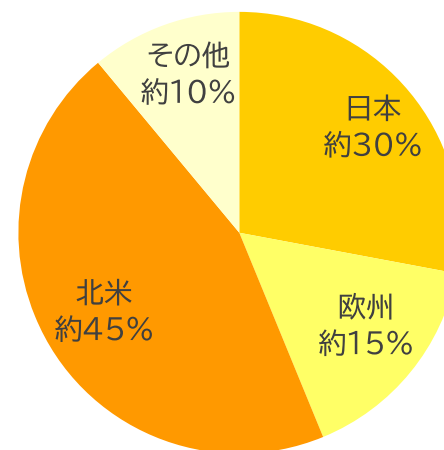
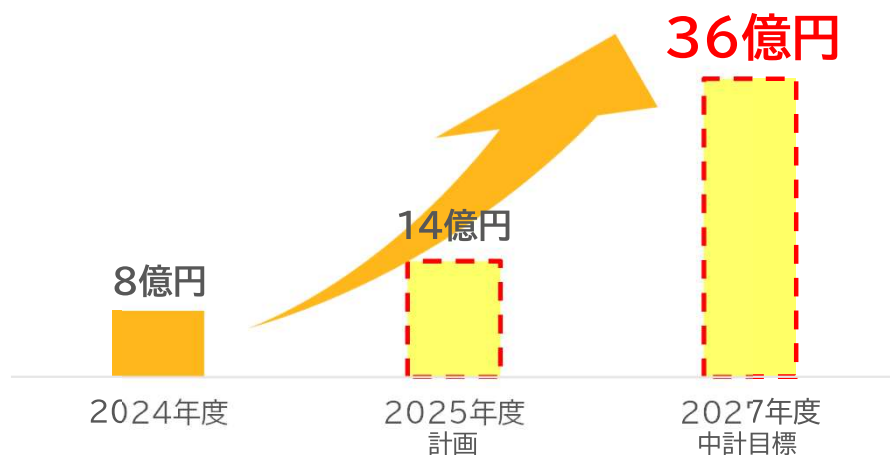


今後の取り組み： ファインケミカル事業

医薬品原料の国内販売・欧州向け輸出の拡大、機能性原料を高次加工した食品の海外販売、および国産イワシ油の活用などのコストダウン効果を見込む。

＜ファインケミカル事業の
営業利益計画＞

＜オメガ3脂肪酸 医薬品原料
エリア別販売数量割合(2023年)＞



※出典:GOED(Global Organization EPA&DHA)
「Omega-3 Ingredient Market Report 2023」より当社加工

ー 打ち手: 医薬品原料

- ・(日本)持田製薬のエパデール新剤型は摂取しやすく患者フレンドリーであり、需要増による販売再拡大。国産イワシ油を活用。為替リスク・物流コストなど原価低減を実現。
- ・(欧州)出荷スタート。既に販売されている国での処方拡大、未承認国での早期販売を実現。
- ・(北米)販売先の在庫適正化。

事業環境変化への対応(米国関税について)

トランプリスクは懸念されるが、グローバルリンクスの強みを活かし、調達先の変更など対策を急ぐ。

<家庭用冷凍食品>



- ー 米国内調達为主であり、影響は軽微。消費動向は不安。

<業務用冷凍食品>



- ー エビ調達コストアップ。調達先の変更を検討することは時間を要す。価格転嫁においては、チキンなどの他タンパクとの競争も懸念される。

<水産商事> F.W. BRYCE, INC.

- ー 中国で加工した商品の米国内販売減少が見込まれる。代替加工を検討も時間を要す。



GLOBAL LINKS

サステナビリティの取り組み 高付加価値商品へのアップサイクル

サステナブルな人工種苗の養殖ブリの皮を活用して、新たな価値を見出す。

▶ 完全養殖「黒瀬ぶり」の皮を活用したフィッシュレザー「namino leather」を開発。





変化への対応力を上げ、
長期ビジョン

「人にも地球にもやさしい食を世界に
お届けするリーディングカンパニー
(GOOD FOODS 2030)」
達成に向けて取り組んでまいります。

見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



まだ見ぬ、食の力を。

株式会社ニッスイ
証券コード：1332

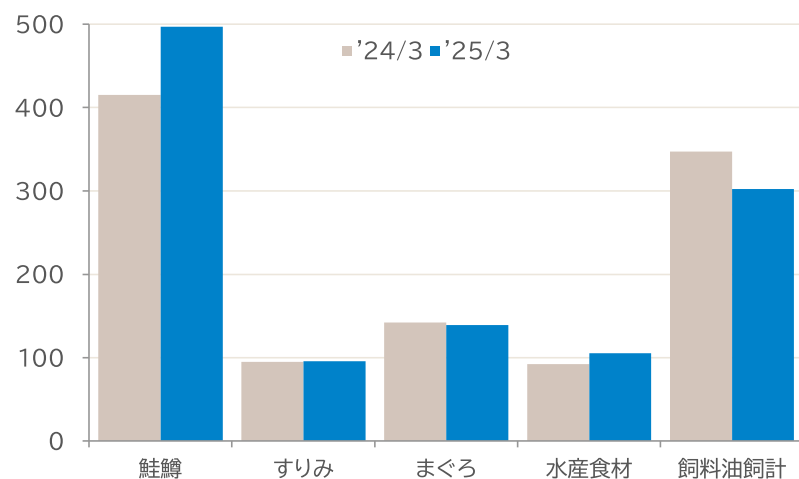
お問合せ先：経営企画IR部IR課
03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

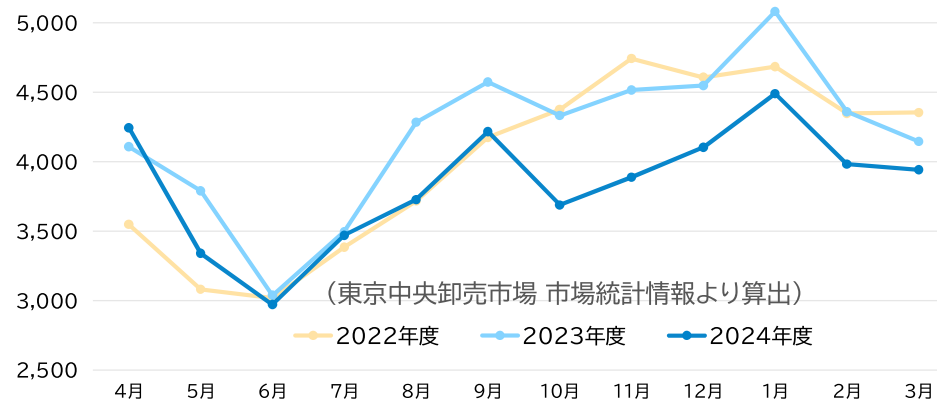
參考資料

2025年3月期 参考資料

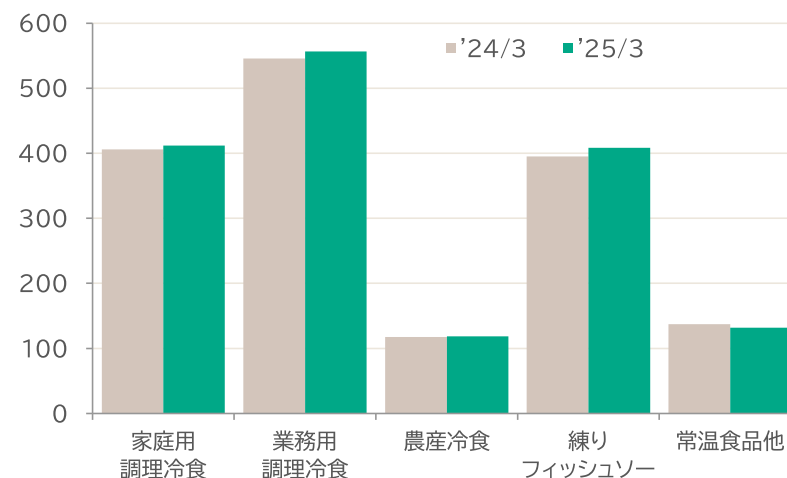
水産個別 主要魚種別売上高 (単位:億円)



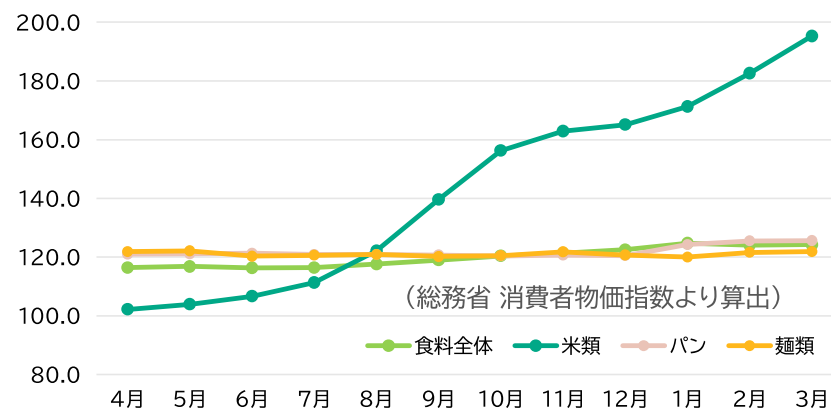
国内水産物市況 生鮮マグロ (単位:円/kg)



食品個別 カテゴリー別売上高 (単位:億円)



食料価格の推移(米類・パン・麺類) (指数:2020年=100)



2025年3月期 連結損益計算書(前期比)

(単位:億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	増減	主な増減要因
売上高	8,313	8,861	547	
売上総利益	1,256	1,392	136	
販売費・一般管理費	959	1,074	114	
営業利益	296	317	21	
営業外収益	55	72	16	持分法による投資利益+23 助成金収入▲5
営業外費用	32	37	4	支払利息+2
経常利益	319	353	33	
特別利益	56	24	▲32	投資有価証券売却益▲12 受取保険金▲10、漁業権譲渡益▲9
特別損失	28	14	▲13	事故関連損失▲10
税金等調整前当期純利益	348	362	13	
法人税等	113	102	▲10	
法人税等調整額	▲11	▲12	▲0	
当期純利益	246	272	25	
非支配株主に帰属する 当期純利益	8	18	10	
親会社株主に帰属する 当期純利益	238	253	15	

2025年3月期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート（連結調整前）

主要在外会社の 為替換算レート	2024年3月期 実績		2025年3月期 実績		前期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	1,483	2,089	1,492	2,275	9	186	14	171
EUR(百万ユーロ)	457	700	451	742	▲5	42	▲8	50
DKK(百万クローネ)	3,280	673	3,504	773	224	99	48	51
その他通貨	—	353	—	399	—	45	14	31
計		3,817		4,191		374	69	304

【参考:為替レート】

※右表の為替レートは
第4四半期の平均

	2024年3月期 第4四半期	2025年3月期 第4四半期	変動率
米ドル(USD)	146.14 円	154.19 円	5.5%
ユーロ(EUR)	159.10 円	163.62 円	2.8%
デンマーククローネ (DKK)	21.33 円	21.93 円	2.8%

2025年3月期 セグメントマトリックス 売上高(前期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	仮計	連結調整	連結 計
水産事業	2,536 (54)	758 (98)	404 (45)	886 (123)	80 (17)	4,666 (338)	▲ 1,025 (▲ 65)	3,640 (272)
	2,482	660	359	763	63	4,328	▲ 960	3,368
食品事業	3,018 (192)	1,111 (44)		846 (43)	102 (5)	5,078 (283)	▲ 368 (▲ 6)	4,710 (278)
	2,826	1,067		803	97	4,795	▲ 362	4,432
ファイン 事業	184 (4)				— (0)	184 (4)	▲ 26 (▲ 3)	158 (2)
	180				0	180	▲ 23	156
物流事業	324 (36)					324 (36)	▲ 159 (▲ 24)	165 (13)
	288					288	▲ 135	152
その他 事業	227 (▲ 32)				1 (0)	229 (▲ 31)	▲ 42 (16)	186 (▲ 16)
	259				1	260	▲ 58	202
仮計	6,291 (255)	1,869 (142)	404 (45)	1,733 (166)	184 (21)	10,483 (629)		
	6,036	1,727	359	1,567	163	9,854		
連結調整	▲ 1,005 (4)	▲ 203 (▲ 19)	▲ 270 (▲ 54)	▲ 17 (0)	▲ 124 (▲ 10)		▲ 1,622 (▲ 82)	
	▲ 1,009	▲ 184	▲ 216	▲ 17	▲ 114		▲ 1,540	
連結 計	5,286 (259)	1,665 (122)	133 (▲ 10)	1,715 (165)	60 (11)			8,861 (548)
	5,027	1,543	143	1,550	49			8,313

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去を含む。

2025年3月期 セグメントマトリックス 営業利益(前期比)

(単位:億円)

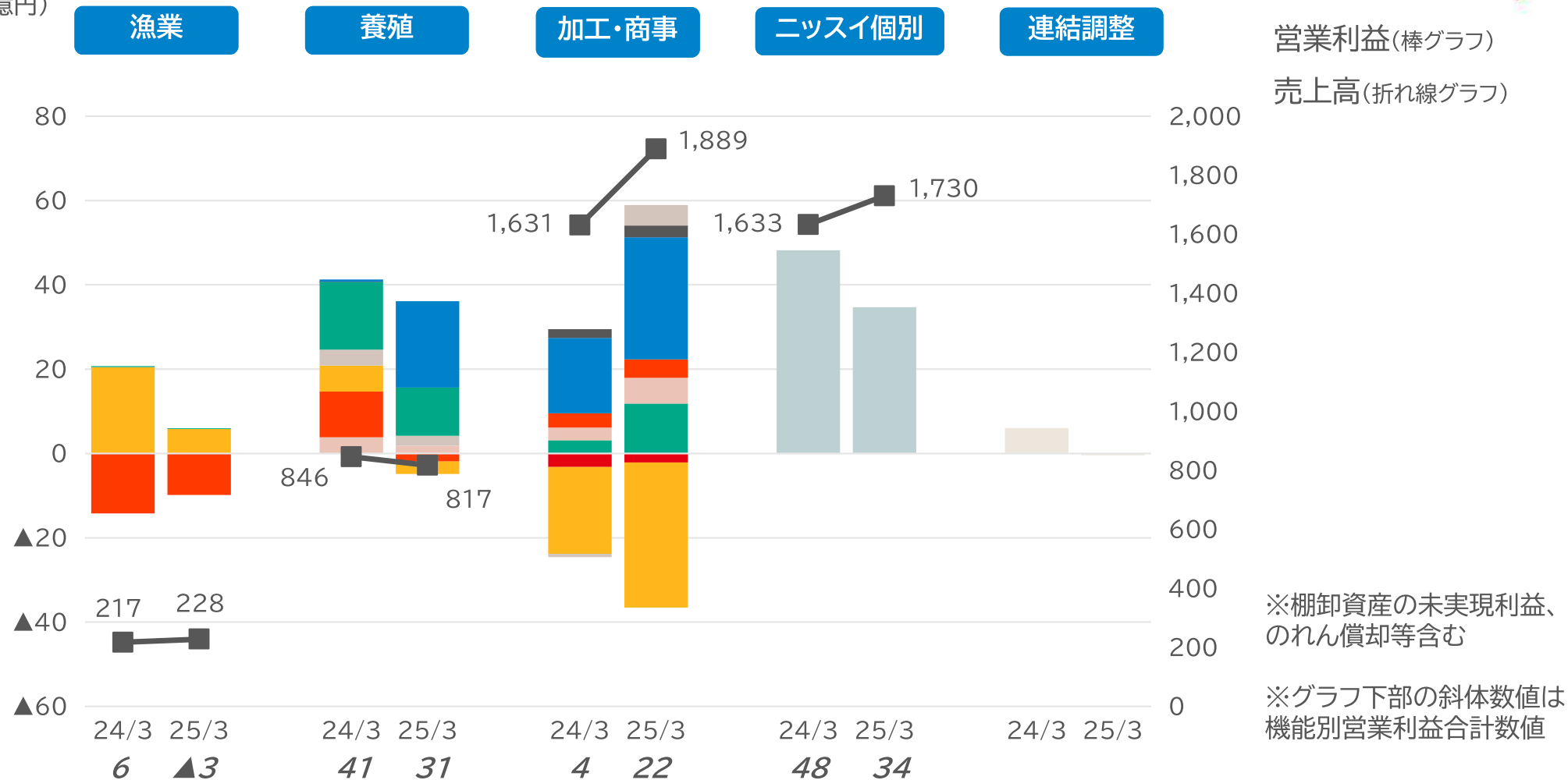
	日本	北米	南米	ヨーロッパ	アジア オセアニア	全社経費	仮計	連結調整	連結 計	営業利益率(%)			
水産事業	53 (▲55)	▲12 (▲1)	9 (25)	29 (12)	4 (2)		84 (▲16)	▲0 (▲6)	84 (▲22)	2.3 (▲0.9)			
	108	▲11	▲15	17	1		100	6	106	3.2			
食品事業	138 (▲12)	63 (11)		80 (11)	7 (1)		290 (11)	▲3 (3)	287 (14)	6.1 (▲0.1)			
	151	52		69	6		279	▲6	272	6.2			
ファイン 事業	8 (8)				— (0)		8 (9)	0 (1)	8 (10)	5.6 (6.7)			
	▲0				▲0		▲0	▲1	▲1.1				
物流事業	28 (13)				28 (13)		0 (0)	28 (13)	17.2 (7.1)				
	15				15		0	15	10.1				
その他 事業	8 (1)				▲0 (▲0)		8 (0)	1 (0)	9 (1)	4.9 (1.1)			
	7				0		7	0	7	3.9			
全社経費						▲101 (3)	▲101 (3)	1 (1)	▲100 (4)				
						▲105	▲105	0	▲104				
仮計	236 (▲45)	51 (10)	9 (25)	109 (23)	11 (3)	▲101 (3)	318 (21)						
	281	41	▲15	86	7	▲105	296						
連結調整	4 (7)	0 (▲1)	0 (▲5)	▲6 (▲0)	0 (▲0)	0 (0)		▲0 (▲0)					
	▲2	1	6	▲6	0	0		0					
連結 計	241 (▲37)	51 (8)	10 (19)	103 (23)	11 (3)	▲101 (3)			317 (21)	3.6 (0.0)			
	279	42	▲9	80	8	▲104			296	3.6			

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、括弧内は増減を表す。

※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等を含む。

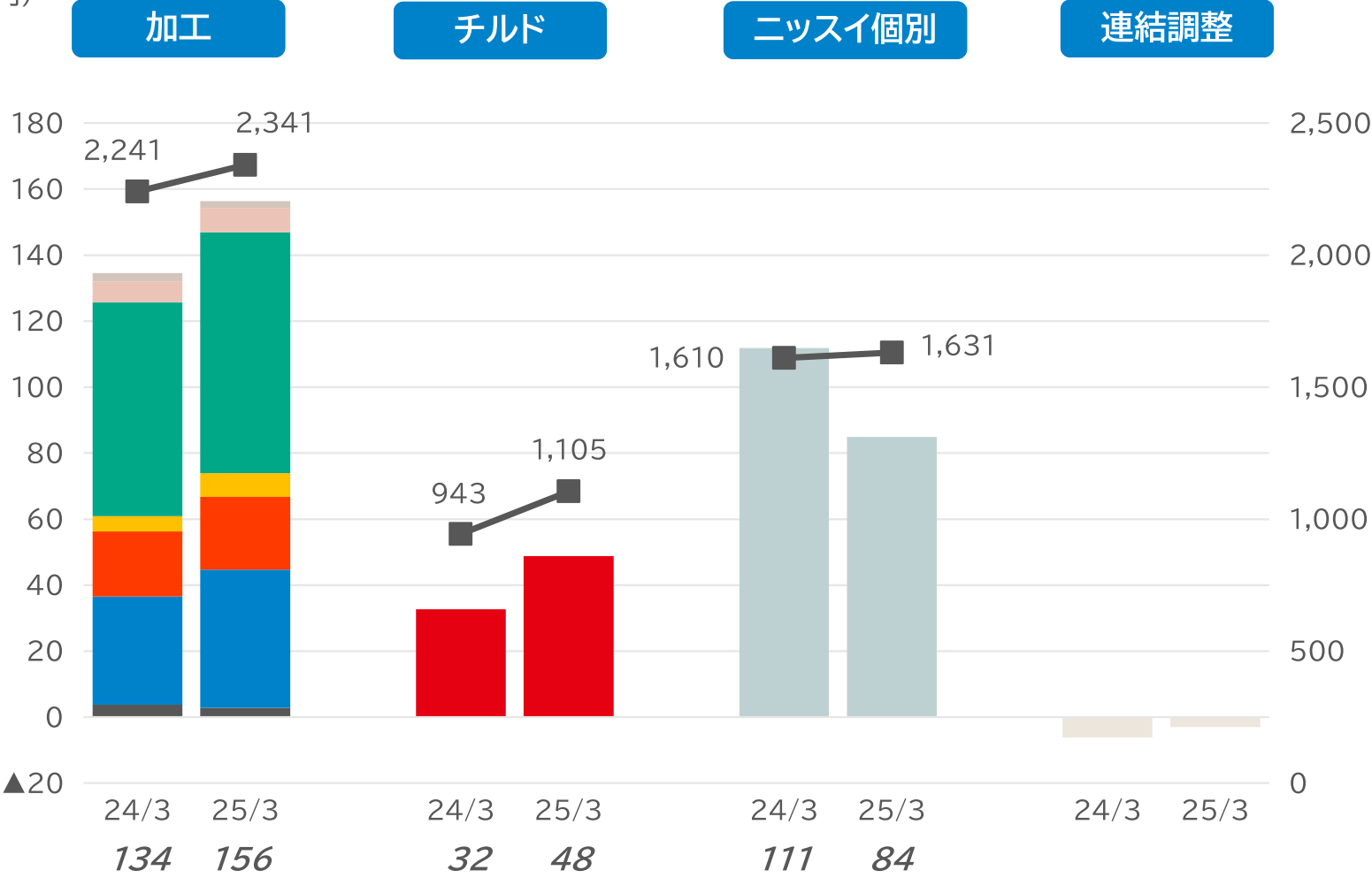
2025年3月期 水産事業 売上高・営業利益(前期比)

(単位:億円)



2025年3月期 食品事業 売上高・営業利益(前期比)

(単位:億円)



営業利益(棒グラフ)
売上高(折れ線グラフ)

※棚卸資産の未実現利益、
のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は
機能別営業利益合計数値



まだ見ぬ、食の力を。